

愛もーど

NTT 東日本 札幌病院 だより

2014.5
vol.14



4月1日付で宮坂祐司先生の後任として外科診療部長に就任致しました、よろしくお願い申し上げます。泌尿器科部長、診療情報管理室室長を兼任致します。今まで担当してきました感染管理推進室室長は笠原英樹先生（リウマチ膠原病内科部長）へ、臨床研修センター長は橋本整司先生（腎臓内科部長）へバトンタッチさせていただきました。感染対策・感染予防、初期臨床研修医の教育等に関して今まで多くのスタッフの方々のご協力を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。外科診療部長ということですが、当院の外科系診療科の質は非常に高く、私が何をやるまでもなく、各診療科が従来通り円滑に診療できるようにお手伝いできればと考えております。

さて、この4月から当院はDPC/PDPS（診断群分類包括評価）を導入しました。これは診断群分類により医療費が決められる包括払い方式ですが、医療の標準化と質の向上を目的としています。さらに診療報酬改定の年に重なり、診療内容全体の見直しが図られています。診療情報管理室室長として入院期間の適正化、クリニカルパスの見直し、適切かつ堅実な診療記録作成等を行っていく予定です。

病院は医師のみならず看護師・薬剤師・検査技師などコメディカルの方々や事務職員など多くの職種の方々が役割分担し機能しています。そして医療の最終ゴールは患者さんの利益です。このゴールに常に到達できるように医師としてだけではなく管理部門の一人として多職種の方々が最大限のパワーを発揮できるようサポートしていきたいと考えております。

最後に当院RC（ランニングクラブ）代表として自らの健康管理も怠らないつもりです。今後ともよろしくお願い申し上げます。



NTT東日本札幌病院
新外科診療部長
伊藤 直樹

新任各長 あいさつ

当院の診療部門・診療支援部門の各長が新たに就任いたしました。
今回、3名の新しい各長より、一言ご挨拶をさせていただきます。

循環器内科



部長 宮本 憲行

循環器内科はNTT東日本札幌病院が札幌通信病院から名称変更された当時から開設されていた診療科で、初代部長の富田先生から甲谷先生、福田先生と歴任され、本年から私が部長職を務めさせていただくことになりました。当科は経験のある循環器専門医のみがスタッフとして北大循環器内科から派遣されて業務にあたっており、私は当院に勤務してから本年度で13年目になります。これからも当院のセールスポイントである最新の各種診断機器治療機器を効率よく使用し、良質かつ最新の医療に即した診療を循環器チームとして、心臓血管外科、放射線科、生理検査スタッフと一緒に実践していきたいと考えております。地域完結型の医療が求められる現状を踏まえて、病診、病病連携のなかで積極的に当科の役割を果たしていきたいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

臨床研修センター



センター長 橋本 整司

4月より泌尿器科の伊藤先生に変わり臨床研修センター長を拝命しました腎臓内科の橋本整司です。よろしくお願い申し上げます。

臨床研修センターは、研修医のさまざまな調整や管理を行うセンターです。患者さんには研修医を通して間接的に関わることになるかと存じます。

当院は厚生労働省の指定する研修指定病院であります。次世代の“良医”を育てることも当院の使命の一つであります。若い故に至らぬ点もあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

感染管理推進室



室長 笠原 英樹

昨今、病気を治すために入院していた病院の中で、結核やノロウイルスなどの集団感染が起きたことを伝えるニュースを耳にすることがあると思います。元来、病院には様々な病気や感染症を持った方がいらっしゃいますが、その入院中に、患者さん同士や医療スタッフを介して感染症が広まってしまう『院内感染』が起こることは防がなくてはなりません。そのために、当院には院長直属の組織として感染管理推進室があり、医師2名、専属の感染症対策を専門とする看護師(ICN)1名を含む看護師3名、薬剤師1名、検査技師1名、事務職1名で構成されております。感染管理推進室では、現在どのような感染症の患者さんが入院しているか、市内でのインフルエンザやノロウイルスなどの流行状況を分析した上で、院内にそれらの感染症が広がらないように様々な対策を講じてい

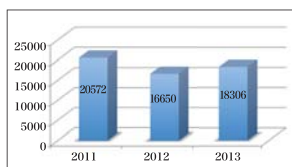
ます。また、感染症の治療に対する抗生剤の適正使用についても週1回検討会を開いており、必要な場合は主治医とも協議をしながら適切な抗生剤の使用を徹底し、院内に抗生剤の効かない耐性菌による感染症が蔓延しないよう努力しています。そして、この活動を通して皆様が安心して当院に入院していただき、ご自分の病気の治療に専念できるよう陰ながら日々努力して参ります。

消化器内科

消化器内科は食道から直腸までの消化管と、その消化を助ける内蔵（肝臓、胆嚢、胆管、膵臓）の検査を行い、またそれらの病気を診断して内科的に治療しております。

〈外来〉

ここ3年間、当科の外来患者数は増加しております（図1）。常勤医の数も若干改善し、今まで一部空白だった午後外来も全て開けるようになりました。今後ますます患者さんを受け入れる事ができるようになります。更に北海道大学消化器内科学講座から先生をお招きし、「炎症性腸疾患（IBD）外来」と「肝臓外来」という専門外来を開設しております。当科は消化器系疾患の専門性の高い診断を目指しておりますので、今後も各分野の診察に力を注いで参ります。



【図1】3年間の外来受付数



【大腸検査を実施する赤倉部長】

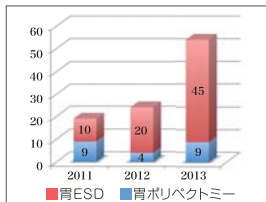


【大腸検査中の吉井医師】

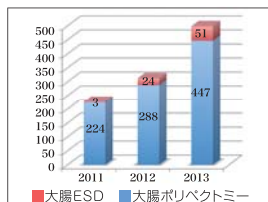
〈検査・化学療法〉

消化器内科の特徴は多種の検査にあります。検査業務は外科に例えると手術にあたり、消化器内科として最もアピールポイントです。当科で施行している検査は内視鏡、超音波（エコー）、消化管造影、血管造影等がありますが、一般の上下部内視鏡検査（胃カメラ、大腸カメラ）の他、EMRやESD、EVL、EIS、EUS、止血術等の内視鏡を用いた処置・治療、カプセル内視鏡やダブルバルーン内視鏡（DBE）等の小腸検査・処置、ERCP、EUS-FNAなどの胆膵系検査・処置、肝生検、PTBD（PTGBD）、RFA等のエコーを用いた検査・処置、TACE・TAIといった血管造影を用いた検査・治療など各種のバリエーションに富む専門性の高い検査、治療を行っています。平成25年から消化管の内視鏡的治療を専門とする吉井医師、胆膵系特にEUSを用いた診断、治療を得意とする羽場医師が赴任し、それぞれの分野で実績を伸ばして業績の向上に貢献しています。（図2）

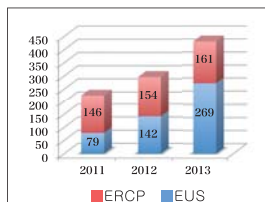
また、各種の癌に対しての治療についても、川本医師を中心に入院、外来を問わず新しい分子標的薬を使用した化学療法や放射線療法も含め種々の治療が行われ、患者さんのQOLを維持しつつ、治療効果の高い治療を目指しています。



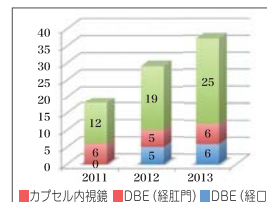
【図2-a】3年間の胃の内視鏡治療実施件数



【図2-b】3年間の大腸の内視鏡治療実施件数



【図2-c】3年間のERCP、EUSの実施件数



【図2-d】3年間のカプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡（DBE）の実施件数

〈入院〉

外来患者数・検査数の増加に伴い年間の入院患者数も増加しています。（図3-a）入院患者さんの内訳は図3-bに示す通り大腸ポリープ、胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌、肝癌などの腫瘍性疾患が多い傾向にあります。大腸ポリープ治療は内視鏡検査が増えてポリペクトミーの対象患者が増えたことや吉井医師の加入により高度な内視鏡治療が提供できるようになった為ポリペクトミー対象患者さんが増加し、入院患者が増加したと思われます。



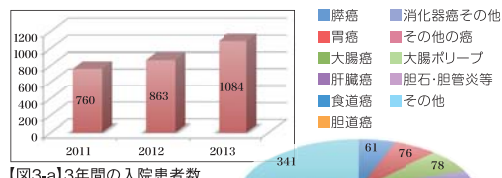
【前列右から】清水医師、赤倉部長、吉井医師、松本医師
【後列右から】羽場医師、川本医師、小竹医師、瀧崎医師

〈消化器病センターとして〉

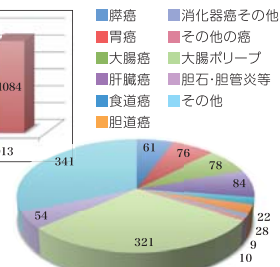
外科ともコミュニケーションを密に取りながら手術適応のある方を円滑にご紹介しております。また、術後の患者さんの化学療法やfollow up検査等も多数行っております。

今後も質の高い診療を行って行く所存ですので、どうかご指導、ご鞭撻を賜れば幸いです。

（消化器内科部長 赤倉伸亮）



【図3-a】3年間の入院患者数



【図3-b】2013年入院患者の病名（計1084名）

看護部門紹介

手術センター



当院の手術センターは、10科（心臓血管外科・外科・整形外科・産婦人科・泌尿器科・眼科・耳鼻科・皮膚科・腎臓内科・麻酔科）の手術に対応しています。年間3000件を超える手術を行っており、20名の看護師が担当しています。ここ数年、侵襲の少ない鏡視下手術が増加傾向であり、入院期間も短くなりました。

手術センターは、医師・看護師・臨床工学技士・放射線技師などの医療スタッフの他、滅菌部門・医療材料部門・事務部門等、多職種が手術チームとして連携し、患者さんとそのご家族に安心して手術に臨んでいただけるよう、日々研鑽を重ねています。手術前日にはベッドサイドを訪問し、患者さんとお話しさせて頂いています。

日々進歩する手術環境を見据えながら看護の質向上を目指し、手術を受けられる患者さんに寄り添った医療・看護を提供していきたいと考えています。

（手術センター看護長 今 洋子）

ICU

2013年4月よりICUと救急部が合併し、ICUの業務範囲が拡大しました。

3交代勤務でICU患者の担当のICUチームと、救急部で2交代勤務をする救急部チームで相互協力できるようにこの1年間体制を整えてきました。

ICU病棟は4床の病床を有しており、2013年1月～12月までに延べ総数903名の入床がありました。主に心臓血管外科、外科、泌尿器科の手術後ケア、全科における重症患者が入床し集中ケアを実践しています。各部門、各科の協力を得ながら円滑な運営に努めています。



救急部は札幌市救急医療機関として循環器・呼吸器、循環器ACS、消化器、産婦人科、小児科、けが・災害の救急指定当番を担っており、1ヵ月の約半分は当番病院になっています。今年度は約3500名の受診患者数で、1ヵ月平均は約300人でした。

勤務体制も場所も異なるICUと救急部とで相互に応援し各自が院外研修や資格取得などスキルの維持向上に研鑽し、緊急、重篤な患者の救命、治療のケアに携わることを目標としています。

（ICU 看護長 高木 徳子）

連携医療機関紹介

NTT東日本札幌病院
連携医療機関

Medical management network

当院と連携している医療機関です。

医療法人財団 老蘇会 静明館診療所

院長挨拶

静明館診療所は在宅医療に特化した診療所として、平成13年7月に開設されました。在宅訪問診療は今でこそあたりまえのものとして世間の認知を受けていますが、当時はまだ珍しく、“訪問診療をしている”というだけの理由で新聞やテレビにも取り上げられたものです。

平成24年より医師3人体制となり、強化型在宅療養支援診療所として24時間体制で主に中央区、西区の在宅医療を担っています。診療対象は、自宅で療養している通院困難な方で、寝たきり高齢者、認知症、神経難病、癌末期等の患者さんが多く、現在の受け持ち患者数は250名余、年間の在宅看取り数は20～30名となっています。

平成26年4月からは、地域包括ケア診療料の届出をして在宅医療と連動した外来診療にも力をいれています。



院長 矢崎 一雄 先生

学歴

昭和25年 北海道大学医学部卒業

職歴

昭和52年 沖縄県立中部病院

昭和54年 宮崎医科大学第3内科

昭和58年 札幌徳洲会病院

平成6年 豊里診療所

平成13年7月 静明館診療所開設

資格

日本内科学会総合内科専門医

日本神経学会神経内科専門医

矢崎先生ってどんな先生？

① 趣味

音楽：6～7年前からフルートを演奏。

2014年6月29日札幌コンサートホールKitaraで行われる「第25回さっぽろフルートフェスティバル」において、フルートオーケストラとして出演されるそうです。興味のある方は是非聴きにいらしてください。

② 休日の過ごし方

患者さんの診療を熱心になされており、休暇が取れたらフルートの練習に行かれるそうです（月1回程度）。

③ お勧めの本

「地図の中の札幌」堀 淳一 著、亜細亜社出版

明治以降の札幌の水陸の土地の変化や地下鉄が通る前の市電の軌道など、札幌の変遷がわかり楽しめるのでおすすめです。

④ 地域のみなさんへ一言

2025年問題を前に地域包括ケアをこの場所（円山静明館）ではじめ、診療所、訪問看護、訪問介護、介護支援事業所、デイケアなどを展開し、患者さんが在宅で過ごすことを支援しています。

担当者コメント

お忙しい中、笑顔で優しく対応くださり大変感謝しております。写真からも先生の優しさがにじみ出ているように、患者さん、ご家族が安心できる暖かい雰囲気が感じられました。

矢崎先生に
インタビュー

医療法人財団 老蘇会 静明館診療所

住所 札幌市中央区南1条西23丁目1-5 円山静明館

電話 011-622-5212 HP <http://www.seimeikan.or.jp/>

交通 地下鉄東西線円山公園駅5番出口から徒歩5分

お越しの際には1階玄関ロビーのインターホンにて御用事の事業所を呼び出してください。

■呼び出し番号 静明館診療所 1001呼

診療受付時間・休診日

■ 電話予約が必要です。

	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	○	○	○	×	×	×

訪問診療は平日午後1時より



免疫力を
高めるための

マ×

知識



新年度もはじまり、みなさん新しい環境などでお疲れではないですか。
疲れていると免疫力が低下し、さまざまな病気がひきおこされます。
これから良い季節を迎えるにあたり、今回は免疫力を高める献立を紹介します！

まずは免疫力低下チェックリスト

免疫力が低下していないかどうか、チェックリストを使って確認してみよう！

- ☐ 疲れやすい
- ☐ 体が重い・だるい
- ☐ 肌が荒れている・吹き出物がよく出る
- ☐ やる気が出ない
- ☐ のどが腫れやすい
- ☐ 風邪をひきやすい・治りにくい
- ☐ お腹を下しやすい・便秘がち
- ☐ 口内炎やものもらいが出しやすい
- ☐ アレルギーになりやすい
- ☐ 最近急に老けた

ひとつも
あてはまらなかった

免疫力が正常に
機能している

ひとつでも
あてはまった

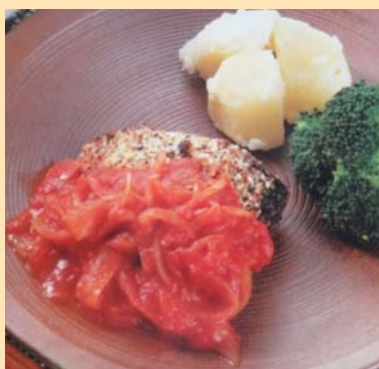
免疫力が確実に
低下している

免疫力を高める献立について

鯖のパン粉焼きトマトソースがけ

〈材料〉2人分

生鯖 2切れ(140g)、酒 小さじ 2/3
a:パン粉 大さじ 3
粉チーズ 小さじ 2
粒マスタード、
こしょう・乾燥パセリ 各少量
トマトソース:カットトマト缶 80g
玉ねぎ 40g
ニンニク 1g
サラダ油小さじ 1/2
トマトケチャップ 小さじ 1½
チリソース 小さじ 1/2
酢 小さじ 1/2
醤油 少量



〈作り方〉

- ① 鯖は酒をからめる。
- ② aは混ぜ合わせる。
- ③ フライパンに油を熱し、みじん切りにしたニンニクと薄切りにした玉ねぎを炒める。香りが立ったら、トマトと調味料を加えてソース状になるまで煮詰める。

- ④ ①に②をのせて広げ、グリルで焼き目がつくまで焼く。
- ⑤ 皿に④を盛り、③をかける。

(栄養管理室 医療技術主任 秋本里加子)



お申込みや参加費は
不要となっております。
お気軽にお立ち寄り
ください！

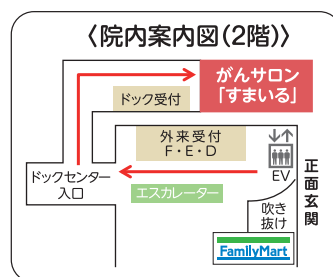
がんサロンすまいる

平成26年5月から、がんサロン「すまいる」を開設いたします。

日時:毎月第4金曜日 午後2時～4時
場所:別棟 ドックセンター2階
対象:がん患者さん及びご家族

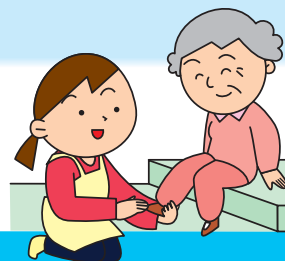
★当院に通院されていない方も、ご参加いただけます

同じ体験をもつ、がん患者さんやご家族と
お茶をのみながら交流し心の悩みや心配
なことなど気軽にお話してみませんか？



【お問い合わせ先】 NTT東日本札幌病院 がん相談支援センター TEL (011) 623-7215

相談室通信 第14回



新室長あいさつ



地域連携福祉相談室室長
吉岡 成人 先生

当院の地域連携福祉相談室では、札幌市内の各種医療機関との病診連携、病病連携を中心として、患者さんからの医療福祉相談を受け、さらには早期退院のサポート、在宅医療支援、地域の皆さんへの医療情報の発信などを通じてシームレスな医療サービスを幅広く提供したいと考えております。現在、看護師、医療ソーシャルワーカー（MSW）、事務の総勢9名のスタッフで、患者さんや患者さんのご家族にとって少しでも満足度の高い医療サービスが提供できるよう、チームとして奮闘しています。

医療の基本である「臨床(clinic)」という言葉の語源はギリシャ語で寝台、ベッドを意味します。病床で辛い思いをしている他者に寄り添い、苦痛を共有するという受動的な意味合いを持った言葉です。治療を施す、病気を治すという能動的な意味を持つ言葉ではありません。私たちは、「臨床」という言葉の意味を噛みしめつつ患者さんや家族のために少しでも役に立つ部門でありたいと考えています。

連携医療機関マップ 更新しました！

当院では札幌市内において連携医療機関として登録いただいているクリニック、医院が一覧でわかるよう「連携医療機関マップ」を作成し活用しております。

このたび、今まで活用していたマップをリニューアルしましたのでご報告します。

★7つのエリアに分けました！

「中央区〈南部〉版」、「中央区〈中心部〉版」
「中央区〈西部〉版」、「南区・厚別区・清田区版」
「白石区・豊平区版」、「西区・手稲区版」
「北区・東区版」

★診療科別に検索できるようになりました！

★カラーでみやすくなりました！

院内1階のエスカレーター付近の「地域連携福祉相談室ラック」に閲覧等できるようになっております。



地域連携福祉相談室ご利用の案内

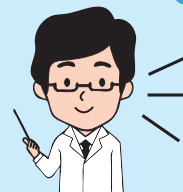
- ★場所／院内2階「Dブロック」内
- ★費用／ご相談は無料です。
- ★相談は予約制です。予約希望の方は、病院職員に申し出るか、直接院内2階「Dブロック」受付にお越しください。また、お電話での予約も可能です。★プライバシーの保持、秘密保持には十分気をつけております。
- ★以下の相談を行っておりますので、お気軽にご連絡ください。
 - 医療福祉相談、患者相談窓口／011-623-8140
 - がん相談支援センター／011-623-7215
 - 受診・入院相談、かかりつけ医の相談、セカンドオピニオンに関するご相談／011-623-8320

イベント案内

当院では、毎月第3土曜日13時に「健康セミナー」を開催しています。健康に役立つテーマでわかりやすくお話いたします。事前申込みが必要です。定員は100名となります。参加は無料となっております。皆様の参加をお待ちしております。

参加申込先／(011) 623-8320 (平日9時～17時まで) 地域連携福祉相談室

平成26年度「健康セミナー」開催予定



第171回	6月21日(土)	肩の痛みについて	整形外科医師	松橋 智弥
第172回	7月19日(土)	バセドウ病について	糖尿病内分泌内科医長	永井 聡
第173回	8月23日(土)	紫外線と皮膚について	皮膚科部長	阿久津 裕
第174回	9月20日(土)	皮膚トラブルの対応について	皮膚排泄ケア認定看護師	朽木 恵美
第175回	10月18日(土)	排尿障害と尿失禁について	泌尿器科部長	伊藤 直樹
第176回	11月15日(土)	静脈瘤治療の最前線	心臓血管外科部長	瀧上 剛
第177回	12月20日(土)	がん検診に行こう	ドックセンターセンタ長	綿野 敬子
第178回	1月17日(土)	リウマチ膠原病について	リウマチ膠原病内科部長	笠原 英樹
第179回	2月21日(土)	最小のキズで治す内視鏡外科手術～手術治療の最前線～	外科医師	山田 秀久
第180回	3月21日(土)	手術の麻酔について	麻酔科部長	山澤 弦

注) 講演タイトル・講師は変更となる場合があります。

入社式 平成26年4月1日(火)

医師13名、研修医10名、看護師32名、他コメディカル6名の合計61名のスタッフが新たに加わりました。日々、研鑽してまいりますのでよろしくお願いします。



【入社式の模様】

緩和研修会開催 平成26年4月16日(水)

院内外含め84名が参加しました。

緩和ケア委員会、緩和ケアチーム主催で講師に市立札幌病院精神医療センター 副医長 上村恵一先生をお招きし、「診断時からの精神科医が関わる緩和ケア—せん妄の見逃しを防ぐために—」というテーマで緩和ケア研修会を開催いたしました。

巻頭写真 腎臓内科 橋本先生撮影「嵐山の夜桜」

編集後記

ようやく暖かくなり、春の日差しがとてもうれしく感じる今日、このころです。

当院においてはこの4月にDPCが導入されました。今後も地域のみなさんから必要とされる医療機関になれるよう日々、頑張っております。よろしくお願いします。(和)



NTT東日本札幌病院

〒060-0061 札幌市中央区南1条西15丁目
TEL(011)623-7520 FAX(011)623-7527

ホームページアドレス

<http://www.ntt-east.co.jp/smc/>